

2015 SUPER GT
LM-corsa・Race Report
第2戦 富士スピードウェイ

◆ 5月2日(土) < 予選 > 天候:晴れ | コース状況:ドライ

#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 / 飯田章・吉本大樹 25位 / 1分40秒135



FIA-GT3 カテゴリーマシンのエントリーも増え、いまや国際的にも注目度が高まってきた AUTOBACS SUPER GT シリーズは、4月の開幕戦から1ヶ月のインターバルを経て、富士スピードウェイを舞台にシリーズ第2戦が開催された。昨年からのシリーズに参戦してきたLM-corsaは今シーズンも飯田章 / 吉本大樹のドライバーコンビで参戦となったが、今シーズンはマシンを一新。レクサス RC F GT3 でのエントリーとなった。このマシンは文字通りレクサス RC F をベースに FIA-GT3 規定に則って市販レーシングマシンとして開発されたもの。レクサス

にとっては初の FIA-GT3 マシンであり、オフシーズンのテストから、スタッフは“生みの苦しみ”を味わってきた。開幕戦でも予選では下位に沈みこんでしまっていたが、ベテランと若手の名コンビのドライブを、チームスタッフが丸となってサポート、決勝レースでは苦労した末に10位入賞を果たし1ポイントを得ていた。今回の舞台はレクサス RC F GT3 にとってはホームグラウンドたる富士スピードウェイ。FIA-GT3 が得意とするコースレイアウトもあって、一層の活躍が期待された。

走り始めとなる土曜日のスケジュールは、先ず午前8時50分から10時35分に公式練習が行われ、午後2時15分からは、ノックアウト・スタイルで公式予選が行われる。これはGT500とGT300が、それぞれ15分のQ1を走り、GT300では上位13台だけが7分間のQ2に進むことができ、そのQ2で上位13位までのグリッドが決定する、というものだ。

快晴で明けた土曜日、午前8時50分からは完全ドライのコンディションで公式練習が行われた。セッションは3つのパートに分かれ、午前10時15分まではGT300とGT500が混走する。そして10時15分から10分間はGT300クラスの専有走行で、最後の10分間はGT500の専有走行時間帯となっている。このGT500クラスの専有走行時間帯になってメインストレート上の落下物を回収するために赤旗中断があったが、GT300クラスが走行している間はセッションの中断もなく、十分な走り込みをしていた。ただし#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3はピットを温めている時間が多く僅か30周を走るに留まっている。大きなトラブルが発生したわけではなかったが、クルマのバランスが思わしくなく、しかもまだまだ発展途上とあってデータが少ないから、果たして何が原因なのかを確認するのも一苦労。そんな状況でベストタイムは飯田が自身の16周目にマークした1分40秒台でクラス最下位に甘んじることになった。これを受けてチームでは各部のパーツを外して分解、午後の予選までにマシンを徹底的に分析することになった。

2時15分から始まった公式予選。Q1は飯田が担当する。だがこれまた“生みの苦しみ”か、ストレートスピードが身上のFIA-GT3カテゴリーにもかかわらず、これがデビュー2レース目の#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、ストレートスピードでトップグループに大きな差をつけられている。こうなるとベテランの飯田をもってしても練習走行からの大幅なタイムアップは難しい。結局、1分40秒を切ることが叶わず25番手に終わってしまった。

明日の決勝は午後 2 時 15 分にスタートする。レース距離は 110 周／約 500km。その本番に向け、午前 9 時から行われる朝のフリー走行で決勝用のセットを再確認する。通常よりもレース距離が長く、2 回のピットインが義務付けられている。後方からスタートする#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 だが、開幕戦で見せてくれたチーム一丸のレースで 2 戦連続のポイント獲得が目標だ。

ドライバー／飯田 章 Q1:1 分 40 秒135／25 位

「本当に難しいですね。レクサス RC F というクルマには、間違いなくポテンシャルはあると思うのですが、今はまだ、それを上手く引き出すことができていません。またカテゴリーの性格上、何でもかんでも交換して速くすることもできません。レギュレーションに則って一歩ずつ、速くしていくしかないですね。明日の決勝も厳しい戦いになると思いますが、クルマを速くするためにもちゃんと 500km を走りきって、今後に繋がるレースにしたいですね」

ドライバー／吉本大樹 Q2: 未出走

「チームは皆、一生懸命やってくれていて、確実に速くなってはいると思うのですが、それでもまだまだ力不足、でしたね。でも今はクルマがどうのこうのと文句を言っている場合じゃない。明日の決勝も何とか最後まで走って、いろいろなデータを取り、今後に生かしたいですね」

監督／小林敬一

「なかなかテストもままならない中で、ドライバーやチームスタッフは頑張ってくれています。でもやはりレースは甘くありません。これからもトライと改善の繰り返しになると思います。そのためにも明日のレースではしっかり走りきることが大事ですね」



2015 SUPER GT
LM-corsa・Race Report
第2戦 富士スピードウェイ

◆ 5月3日(日) <決勝> 天候:晴れ | コース状況:ドライ

#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 / 飯田章・吉本大樹
リタイヤ / 61周



前日に続いて快晴、文字通りの五月晴れに恵まれた富士スピードウェイでは、AUTOBACS SUPER GTの2015年シリーズ第2戦となる富士500kmレースの決勝日を迎えた。早朝からプログラム満載で、まずは朝一番、午前8時15分にスタートするサポートレースに続いて午前9時からSUPER GTのフリー走行が30分間にわたって行われる。さらに、その後もサポートイベントの決勝レースが2レース行われ、正午からはピットウォークも実施され、雰囲気が高潮に盛り上がったところで午後1時05分からは、SUPER GTのウォームアップ&スタート進行が始まる。これがレースを前にして最後の走行セッションで、決勝

に向けてフレッシュタイヤの皮むきやマシンの最終チェックが行われる。そして午後2時15分、500kmレースの火ぶたが切って落とされることになっている。

完全なドライコンディションで行われたフリー走行は午前9時から9時半までの30分間。#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は飯田章と吉本大樹のコンビが交替でドライブ。マシンチェックに時間を割いた関係から走行周回数は11周。マイレージを伸ばすことはできなかったがフィーリング的にはまずまず。決勝レースは500kmの長丁場とあって、決勝での追い上げに期待が高まった。

引き続き青空の広がる中、ピットウォークに続いてスタート進行が始まり、午後2時15分には決勝レースに向けてのローリングが始まった。吉本がスタートを担当する#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、25番手スタートながらスタート直後の混乱をかいくぐり、23番手にポジションアップしてオープニングラップを終えている。1分41秒台から42秒台前半にペースを揃えながら先を急ぐ吉本だったが、上位陣にはミスやトラブルから後退するクルマもあって13周目には19位にまで進出している。

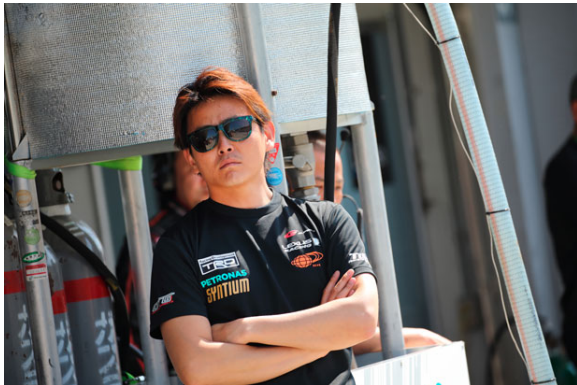
ところが好転魔多し。左フロントタイヤがパンクしてしまいスロー走行した末に18周を走り終えたところでピットイン。タイヤを交換するとともにドライバーも飯田に交替してピットアウト。21番手でレースを再開した。タイムが伸び悩んでいる上に、予期せぬパンクでタイヤ交換するためにピットインしていたから、交替した飯田も単独走行を強いられなかなかポジションアップを果たせないでいた。

それでもレース中盤にはクラス16位辺りまで進出した飯田は、再度ピットインして吉本に交替する。ところが、後退してピットアウトして行った吉本はすぐに再びピットに向かう。実は#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3がピットアウトして行ったあと、ピット前にオイルが零れていたことをスタッフが発見。無線でドライバーの吉本とやり取りした後、ピットに呼び戻したのだ。ピットインした#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、そのままガレージに直行し、残念ながらそのままレースを終えることになった。

次戦は6月のタイ・ラウンド。クルマを送り出すまであまり日程に余裕はないが、何とかトラブルを解析して対処、次回は最後まで戦えるクルマに仕上げ開幕戦のような粘り強い走りで見事に入賞に繋げたいところだ。

ドライバー／飯田 章

「これも生みの苦しみだと思いますが、レーシングカーを開発するのは本当に難しいですね。特に、重いからかストレートが苦しい。それでも一歩ずつ、着実に進化しているので、これを続けていくしかないですね」



ドライバー／吉本大樹

「なかなか簡単にはいかないですね。重いからかストレートスピードで大きな差がついてしまって…。コーナリングではまずまずのポテンシャルを引き出せるようになってきました。でも悔しいレースはこれからも続くと思いますが、何とかクルマの戦闘力を高めていきたいですね」

監督／小林敬一

「走るたびに手ごたえを感じることはできているのですが、でもライバルも進化していますから、なかなか追いつくことができません。今回も、駆動系のトラブルなど、いろいろ予想外の出来事の多いレースになってしまいました。クルマを速くするだけでなく、こうしたトラブルも未然に防げるように、一生懸命クルマを開発して行きます。これからも応援してください」

